

新しい年度を迎えるにあたって



日本アイ・ビー・エム健康保険組合
理事長
小玉 道雄

被保険者ならびにご家族のみなさま、また、事業主様には日本アイ・ビー・エム健康保険組合の事業運営につきまして日頃より多大なるご理解・ご協力を賜り、心より御礼を申し上げます。さて私、昨年12月16日に行われました健保組合「議員総会」において、「理事長」の任を仰せつかりました。当健保組合のみならず国の健康保険制度を取り巻く環境が極めて厳しい状況下においてこのような大役を仰せつかり、その責任の重さを感じております。

さて、わが国の2015年度の概算医療費は41・5兆円と過去最高、対前年度3・8%の高い伸び率となりました。この要因は高齢化等に加え、一部の高額な薬剤の保険適用の影響によるものと考えら

れており、健保組合全体の医療費（保険給付費）も同様の傾向にあります。2017年度からは、健保組合が負担している後期高齢者支援金の算定方法が、報酬（給与）を基にした「全面総報酬割」に移行されるため、多くの健保組合が負担増を強いられることが必至であり、健保組合を取り巻く財政状況はさらに厳しくなると予測されます。このような現役世代に過重な負担を強いる高齢者医療制度の負担構造については見直しが必要であり、他健保組合や健康保険組合連合会とともに適切な対応を求めてまいります。

2017年度は、みなさまの医療費と健診のデータの分析を基に保健事業を実施する「データヘルス計画」が3年目となり第1期最

終年度を迎えるほか、マイナンバーについては医療保険に関する情報との連携の本格化などが予定されています。健保組合としては、誰もが安心して医療を受けられる国民皆保険制度の一翼を担うという責任のもと、財政の健全化に取り組みつつ、みなさまの健康で安心な暮らしを支えるため、事業実施にまい進していく所存です。みなさまにおかれましても、当健保組合の事業のご活用等を通じて健康な毎日をお過ごしいただき、医療費節減にご協力いただければ幸いです。

最後になりましたが、本年がみなさまにとって幸多き一年となりますようお願い申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。